

## 第7回 篠山再生市民会議 会議録(要旨)

(記録：企画課)

日 時：平成19年10月12日(金) 16:00～19:00

場 所：篠山市役所 第2庁舎 3階 会議室

出席者：篠山再生市民会議委員、庁内調整会議職員

傍聴者：16名

会議次第：

1 開会

2 報告事項

(1) 論点整理(長峯メモ)No.4について…資料1

3 協議事項

(1) 財政収支シミュレーションについて…資料2

(2) 議長試案の修正案について…資料3

(3) 中間答申のまとめ方について…資料4

(4) 補助金 施設維持管理の分科会の進め方について…資料5

(5) 当面のスケジュール

4 閉会

決定事項等

- ・ 次回は、歳出削減対策に関する議長試案修正案 または をもとに、ボーナスカット方法を見直したシミュレーションを再度検討し、第一次答申案を議論してもらう。
- ・ 次回会議で了承を得た篠山再生計画(行政改革)第一次答申は、10月29日に市長へ提出する。
- ・ 次々回以降、来年春まで、補助金と施設維持管理についてそれぞれ分科会にて検討し、本会議での議論となるたたき台を出してもらう。その間、適宜本会議も開催し、議員や市民へのアンケート実施等についても検討する。

議事要旨

3 協議事項

(1) 財政収支シミュレーションについて…資料2

[事務局より説明]

- (A委員) 職員数 400人体制の対応について、行政で業務を全てやるのではなく、保育所や幼稚園以外でも、民間へ委託できる業務を検討して、職員を減らしていくという考え方でよいのではないか。
- (B委員) 民間へ委託した際の物件費をいくら積んでいくかの議論がされていないので、その点でこの表は辻褃があっていない。
- (C委員) 外部委託によって職員を減らすということではなく、まず組織を見直して定数を減らし、その中で外部委託も検討していく必要がある。
- (D委員) 400人体制を達成するということは、近隣市町の中でも、市民サービスを維持しながら生産性の高い組織に生まれ変わるよう、前向きな考え方で仕組みを変えていくことだと認識している。
- (議長) 総務省が作成している全国市町村職員数のデータがあり、人口5万人未満の都市グループを見ると、だいたい350人から450人の間に収まっている。県内の類似団体も勘案して400人という数字を出したが、今回の第一次答申を出した後にもう少し議論がしたい。ただ、400人の目標を掲げ、それに向け

て組織を変え、施設のあり方を検討するのも必要ではないか。390人なのか410人がいいのか、その辺りは多少幅を持って、今年度後半にもう少し厳密に議論していきたい。

(E委員) 歳出の「その他」項目の増減について、特別会計への繰出し金が主になると思うが、これから増加していくのではないか。

(事務局) 特別会計への繰出しについて、特別会計はそれぞれの会計でそれぞれの動きがあり、長期の見通しを作成している特別会計についてはその数字を参考にし、他はこれまでの推移を参考に作成している。

(F委員) 歳入の「その他収入」のうち、公債借り入れはどれくらいあるか。

(事務局) 歳入は一般会計ベースで作成しているため、「その他収入」には臨時財政対策債の数字が入っており、約4億円借り入れている。道路、建物等の建設にかかる借り入れは特定財源のため直接歳入には入れていないが、地方債残高には含んでいる。

(F委員) 平成28年以降黒字見込みなので、これを返済財源として借り入れて、平成27年までの赤字を減らすことはできないか。

(事務局) 平成28年以降、財政収支見通しの目処が立ってくれば、見通しに盛り込まれていない新たな事業や、潜在的にやらなければならない事業に取り組むに当たっての起債発行であれば可能だと思う。

(議長) 地方債は原則社会資本を建設するために発行するものなので、赤字地方債は発行できない。

(G委員) 職員数のシミュレーションで、採用予定数が年度によってばらつきがあるようだが、根拠を教えてください。

(事務局) 計画的な採用を年次ごとに行っていくのは当然だが、シミュレーションは数字ありきで合わせている。実際に採用する場合は前後にバランスよく採用することになる。

(A委員) 年々退職者のいくらかを採用するのはわかるが、給与をカットしなくてはならない最悪の状態まで来ている。できるだけ新規採用を絞っていかないと、給与をカットする意味がないのではないか。

(議長) あくまで試算だが、将来人件費を減らし、公債費が減っていくと、平成28年度以降黒字に転換し、基金も枯渇しないで推移していくということで、破綻という状況には陥らずに済むシミュレーション結果が出ており、若干展望が出てきたと感じている。どこをどのように削るのがいい案なのか議論していきたい。

(H委員) シミュレーションでは平成28年で黒字になっているが、高齢化し、市税収入が減少することが加味されていないのではないか。

(2) 議長試案の修正案について…資料3

(議長) [資料により説明]

(I委員) 人件費、投資的経費などの削減と同時に、ここまで削減しようと思うと、組織の合理化を進める必要がある。

- ( F 委員 ) 議員報酬総額の削減額が出ているが、定数の削減について、明確にしたい。次の選挙では7人減の15人にして、報酬を20%カットすると6,000万円程度の効果がある。その次で11人にすることで、さらに2,000万円効果がある。
- ( 議 長 ) 議員の報酬や定数については、議員の責任で考えてもらいたいということで、総額の削減目標金額は出しているが、具体的な人数は出さなかった。
- ( J 委員 ) 議員報酬の削減額は5,000万円として、削減人数も明記したい。議員定数は15~18人と思っている。
- ( A 委員 ) 議員定数を我々が提案するのは法的にも難しいが、歳費については市長への答申はできるのではないか。議会には、今の事態を認識してもらい、努力して欲しいという提案はできると思う。
- ( C 委員 ) 再生市民会議の意志として金額や人数を議論して出すべき。職員がこれだけ減収なり人員削減されるのだから、議員もそれ以上の報酬、人員削減が必要。
- ( 議 長 ) 最終的に決めるのは議会だと思うが、市民会議からの提言という形で数字を出すことは可能だろう。削減総額を3,000万円から5,000万円にするとか、人数の削減も4~7人という意見が出た。
- ( I 委員 ) 削減する根拠を示す必要がある。議員数そのものにしても、根拠を示す必要があるのではないか。
- ( C 委員 ) 人口に対する議員の割合や、職員が削減されようとする状況など、根拠となるものはある。
- ( J 委員 ) 自治会長会理事会が提出された意見書にも、議員の削減が出ているし、市民も意思表示しており、市民の声を市民会議で反映しないとイケない。
- ( 副議長 ) 市民、職員との痛み分けを考えると、議員報酬にも厳しい意見を盛り込まないと市民も納得しないのではないか。
- ( G 委員 ) 議員の定数に関しては安易に財源がないからとか、責任論で定数減というのは反対である。今後の篠山市議会の方向性を前提に議員数を考えないとイケない。今の議会や歳費の現状から、18人という意見を持っているが、歳費を見合った額にするならば議員を倍にしても構わない。
- ( H 委員 ) 議会の歳費は減額して、その枠内で定数と報酬を考えてもらえばよい。
- ( C 委員 ) 議会が状況を把握したうえで人数を今まで通りにするのであれば、その分報酬金額を下げるべき。議員の協議会でそういった答えが出てきていない状況なので、市民会議から言わざるを得ない。
- ( A 委員 ) 議会の問題については、議会が主体性を持つなかで、定数減、歳費削減を選択してもらような意見を提示してはどうか。  
議員以外の特別職について、自主的に削減されている状態だが、一般職員、議員の議論と同時に、どの程度の削減がいいのか考える必要があるのではないか。
- ( G 委員 ) 議会に任すだけでなく、市民から意見が出れば、議会も市民と対話する形が取れるのではないか。現状維持では市民は納得が行かないと思う。

- ( J 委員 ) 財政がひっ迫しているから減らすのではなく、議会が機能するのであれば議員は何人でもよい。
- ( 議 長 ) 職員 400 人体制は目標として設定するとして、新規採用は年度間でバランスを取りながら絶やさず案と、採用をゼロにする案があるが、いかがか。
- ( 副議長 ) 新規採用は絶やさずに、10年後 20年後の篠山市を背負っていく若い人も育成するべき。将来結婚し、子どもが増えることもある。一人でも地元で採用して、生活してもらうことでプラスになるので、新規採用は最低限確保してもらいたい。
- ( I 委員 ) 新規採用について、3名がいいのかわからないが、全く採用しないというのはいけない。
- ( F 委員 ) 職員数について、400人規模となれば、40年勤務するとして、1年 10人採用すれば 400人になる。
- ( C 委員 ) ボーナスカットについて、基金残高の増加に応じて戻すことを条件に、戻す割合は検討するとして、当面ゼロとする案 に賛成。
- ( A 委員 ) 職員の給与が減ると、市税収入へも影響しないか。
- ( D 委員 ) 団塊の世代のリタイアによる市税の減収が大きいのではないか。
- ( 議 長 ) 市税は読みにくいですが、市内に住む団塊世代のリタイアの影響がすぐに出てくるのか、むしろ都市部からの団塊世代の移住者がありプラスになるのか、上がる要因も下がる要因もあり、横ばいと予測するしかないだろう。歳入増の議論はしていないので、目標値として、下がらないようなアイデアを出してもらうことになるだろう。  
中間答申で全て確定するのではなくて、この答申を出して、行政なり議会で議論してもらうという、問題提起として捉えていただきたい。
- ( K 委員 ) 目標は少し高いほうがいい。これくらいの案なら達成できるだろうというより、少し厳しい目に目標設定しておいたほうがいい。市税の見通しのこともあるし、政治の動きで歳入もどうなるかわからないので、どんな事態が起こっても破綻しないように余裕を持たせたい。案 は相当厳しいと思うが、目標を立てるからにはきつい位の目標がよい。
- ( E 委員 ) 職員 400 人体制の達成が若干遅れたとしても、案 のように採用は行うほうがよい。今回の中間答申を出して、実際に来年結果が出てきた時点でもう一度検証して、再提言できるチャンスがあればと思う。
- ( L 委員 ) いきなり大きな目標を立てると、やる気がなくなるということもある。いきなりできないことをするよりは、段階を踏んでいくやり方でもよいのではないか。  
議会については、これまでの経過は議員が一番よく知っていると思うので、議員に任せたい。
- ( 議 長 ) 案 と案 の違いはボーナスカットの方法で、効果額としては、案 の方が大きくて厳しい削減に見えるが、ボーナスカットを状況に応じて復帰させる条件を入れるなどすると、少しずつボーナスを貰うか、短期的に削って早く復帰させるかの選択で、生涯賃金で見ると削減額に大きな違いはないのか

も知れない。

(C委員)当初、給与削減の案もあったが、将来的にも影響が大きい。職員数は、職員から見れば厳しいかもしれないが、一般から見れば正常な数字に近づくのではない。給与は減らさずに条件付きでボーナスだけ削減する案には賛成である。

(F委員)案を基本として、ボーナスについては1ヶ月でもないと困るのではない。採用は3人でも確保すべき。

(H委員)ボーナスカットについて、先ほどの議員報酬と同じように、案の削減額をベースに総額の削減額を示して、どの方法で削減するかは職員で検討してもらえばよい。

補助金はこれまでの行革で30%カットされているとは言え、ゼロベースで考えると2~3億円は削減できるのではない。結果として現実的に5,000万円になるなら仕方ないが、目標は高めに設定したい。

(議長)職員数に関しては、400人体制を目指して新規採用を3名ということで、皆さん合意ができていているように感じた。

本俸は触らずボーナスカットで削減するという意見が多いと思うが、問題は削減幅をどうするかである。支給月数を1ヶ月にすれば2ヶ月よりも年あたり1.7億円ほど効果額が上乗せとなる。復帰条件を付けてボーナスゼロで提案する方法もある。復帰条件を付けるので、削減幅を大きくして短期的に早く効果が出れば、早く戻る可能性もある。

(A委員)今回の修正案が固まれば、シミュレーションの見直しはされるのか。

(議長)次回の会議で最終確認の機会があるので、事務局に再度シミュレーションを出してもらいたい。次回会議の最終確認後に修正があれば議長、副議長に一任いただくということにしたい。案か案の選択肢でいくということによる方がいいか。

(B委員)今後、若干財政調整基金は減っていくが、長期的には回復すると見込んで13億円の削減を是とするのか、案のように、実質の収支不足額を越えて17億円という削減額を設定するのを是とするのか、考え方を決めておけば何に向けてシミュレーションすればよいか作業しやすいだろう。

(議長)案については、ボーナスの復帰条件を付けると、そのままの削減効果とはならない。財政調整基金について他市の状況などは詳しく調べられていないが、平成19年度の現状くらいまで戻らないとボーナスも復帰できないだろう。

今日出した修正案の中で、職員数の削減は案・案の形で行くとして、人件費の削減方法について、もう一度改めて修正案を出すということによる方がいいか。

補助金については、分科会でも議論いただき、次の答申のときに具体的な数字を出す。今回の数字を修正しても構わないと思う。今回補助金の提案をしても、すぐ来年度の予算編成に反映されないだろうから、ひとまず財政の見通しが立つ数字であればよいだろう。

削減額について、現実的な数字を目指すのか、削減効果が弱くなることを見込んで大きな目標値を設定するのか議論できていないが、市長の意向も聞きながら考えてみたい。

<休憩>

(3)中間答申のまとめ方について…資料4

(委員)最終答申をするのはいつか。

(議長)市では第1次再生計画と第2次再生計画の2段階に分けて再生計画を考えているが、第1次再生計画に対する中間答申と最終答申という分け方なら中間段階なので完成版でなくてよいという捉え方になる。今回の場合は、来年度の予算編成に対して提言するという目的がはっきりしているので、第1次再生計画への第1次答申という位置づけになるのではないか。この後、補助金や施設維持管理の検討が進み、新たな提言内容が出てくれば第1次再生計画への第2次答申という形でまとめるのが筋としてよいのではないか。つまり、今回は中間報告ではなく、第1次答申として完結したレポートにしようと考えている。

答申は市長を通して何らかの形で情報公開されると思うので、市民に見てもらうことを想定すると、紙1枚だと給与カット、補助金カットといった提言内容が誤解される可能性もある。前段で、篠山市が大変な状況の中、諮問を受けて、議論の中で苦渋の選択をし、提言していることを示しておく必要があるだろう。今回の答申の内容は、これから先の答申よりも注意して書いたほうがよいのではないか。

こういう形の答申案を出すということによろしいか。

(K委員)構成案の内容を盛り込めば、必然的に2~3枚のボリュームとなり、答申の重みも出てくると思う。

(議長)市の財政状態と市民会議の位置づけについては示す必要があるだろう。短く簡潔にまとめるだけでなく、市民にもわかりやすい説明を加えるという形によろしいか。

章の構成についてはどうか。

最終的には議長が全体の素案を作成するが、できれば、執筆希望があれば名乗り出てもらいたい。事務局も、市民会議の主体で執筆してもらいたいという意向がある。

この場では決めかねると思うので、個人的に希望があれば伝えてもらうという形で協力いただきたい。

(A委員)全体の文章の流れを整えるために、修正が入ると思うが、部分的な素案を書けばよいということか。

(議長)箇条書きでもいただくと、それをヒントに文章にしていくので、ぜひ協力いただきたい。逆に、全体調整を担当していただいてもいい。

次回には歳出削減策のボーナスカットの部分は空欄とするが、それ以外の部分は書き込んだ素案を出したい。

(4)補助金 施設維持管理の分科会の進め方について…資料5

(議長)前回の協議で、補助金と施設維持管理に関する2つの分科会を立ち上げ、今後の議論のたたき台をつくってもらうことになった。

休憩時間中にどちらの分科会に入るか決めてもらったが、メンバー構成はこれで行きたい。分科会の進め方についてはそれぞれの部会に分かれた時点でリーダー、サブリーダーを決めて、具体的な進め方を話し合ってもらえばよい。

(C委員) 補助金について、10%削減を前提に話を進めていくのか。

(議長) 第1次答申の中では全体の財政見通しを立てるために10%削減の数字を入れているが、分科会で検討する中では最初から10%削減ではなく、ゼロベースで検討すればよいのではないかと。一律削減ではなく、必要なものは増やし、不要なものは廃止を提言するなど、最終的に集計したものが20~30%削減など出てくれば、たたき台として本会議に出してもらえればよい。

(B委員) 施設維持管理について、5億円の削減目標を睨みながらの議論だと思うが、市で今後検討する事項について取り扱うのかどうか。

(議長) 11月15日に分科会の第1回を予定しているので、事務局の資料提供がどの程度まで可能で、どの程度検討できるかを出してもらい、そのときに協議してもらいたい。3~4ヶ月という時間の制約があるので、全ての施設を細かく検討するのは困難だと思う。

(副議長) 今後、補助金と施設維持管理以外の項目についてはどこで協議するのか。議員が財政状況についてどういう案を持っているのか等、議員の意見を聞きたい。来年4月に議員選挙があるので、市民にも基準の一つとして出してもらいたい。

(議長) 分科会のみを行うわけではなく、例えば2回程度分科会を行うたびに本会議で状況報告をしてもらったり、他の議題として、議員や市民へのアンケート調査などの議論もしてはどうか。急ぐのであれば第9回の議題として、まず議員へのアンケート調査について挙げるというのはどうか。

(委員) 異議なし。

(議長) ひとまず議題として挙げたい。市民へのアンケートは、予算的に制約もあると思うが、市民の1割への郵送アンケートなどについてはどうか。

(委員) 是非取り上げてもらいたい。

(議長) 事務局には、予算的にどの程度まで実施できそうか確認しておく。

(C委員) 自治会長会の意見も伺いたい。

(議長) 理事などの少数であれば対話の形がとれるかも知れないし、全自治会長宛ならばアンケートになるかも知れないが、検討することとしてよい。

(J委員) 自治会長会の会長は、市民会議と対話を望まれているようだ。

(議長) 次の答申は年度内でなくとも、7月にスタートしているので来年6月頃でよいと考えている。月に1回開催するとして、それまで8回程度の協議が可能かと思う。その中で分科会をどの程度行うのかも含め、運営委員会でスケジュールのたたき台を組んで、次回提案させてもらいたい。

#### (5) 当面のスケジュール

(議長) 次回は10月25日に市役所第2庁舎にて、次々回は11月15日に西紀支所にて開催する。

また、10月29日に答申を予定しているが、議長と副議長とで提出することによるのか。

(委員) 異議なし。

- 以上 -